

大村ロータリークラブ週報 No.27

UNITE
FOR
GOOD

令和8年2月17日発行（通算例会3,170回）

会長：芦塚 義幸 幹事：鶴田 幸尚

2025～2026年度 国際ロータリーテーマ

『よいことのために手をとりあおう』 RI 会長 フランチェスコ・アレツツォ

2025～2026年度 大村ロータリークラブテーマ

私が変わる！変化とチャレンジ！

会長の時間

(代理：伊達副会長)

2月第2例会（2月10日）

ロータリアンとしてのフィロソフィーとモラル、アサーティブ・コミュニケーション

■ フィロソフィー(原点にあるもの)

ロータリーには、例会出席や奉仕活動など、いくつかのルールがあります。例会に出席すること、奉仕活動に関わることは、ロータリアンとしての義務でもあります。確かに、ロータリーは一定の規則の上に成り立つ組織です。しかし、そのルールのさらに奥、その元にあるものは、ロータリアンとして『どうありたいか』というフィロソフィーだと思えます。

ロータリーの標語「Service Above Self(超我の奉仕)」は、行動を命じる言葉ではありません。自分を超えて他者と向き合うとはどういうことかを考え続けるための、まさにロータリーの原点となる哲学だと感じています。

ロータリーの標語「Service Above Self(超我の奉仕)」は、行動を命じる言葉ではありません。自分を超えて他者と向き合うとはどういうことかを考え続けるための、まさにロータリーの原点となる哲学だと感じています。

■ モラル(行動として表れるもの)

このフィロソフィーが心に根づくとき、それは自然と行動、つまりモラルとして表れます。できるだけ例会に出席すること、役割を引き受けること、相手の話に耳を傾けること。これらは義務として押し付けられるものではなく、ロータリアンとしての在り方から生まれる行動です。

■ アサーティブ・コミュニケーション(関係性を支える力)

フィロソフィーとモラルを、実際の人間関係の中で生かすために欠かせないのが、アサーティブ・コミュニケーションという考え方です。それは、自分の考えや立場を大切にしながら、同時に相手の考えや立場も尊重する、対等で誠実な関わり方です。

例えば、委員会で意見が分かれたとき、『それは違う』と否定するのではなく、『私はこう感じています。なぜなら～だからです』と伝える。あるいは、出席が難しい状況でも、黙って距離を取るのではなく、『今は十分に関われませんが、次は協力したいと思っています』と意思を示す。こうした関わり方こそが、ロータリー場で学び、実践できる力だと考えています。

■ 最後に、少しでも個人的なお話をさせてください。

私はロータリーに入会して、16年目になります。ぼーっとしていても、時間は過ぎてしまいます。であれば自分なりに何か学びを深めてみようと思い、5年前から「心理」と「教育」を学ぶ環境を見つけ、その中で学びを重ねた結果、この3月に、学士(教養)の学位を取得することとなり、認定心理士という資格も得ることになります。

これらの学びは、ロータリーとは直接関係がないように見えますが、職業であれ社会であれ、そこには常に人との関係があり、対話があります。人との関係を大切にしようとする姿勢は、ロータリーのフィロソフィーと、深く、深くつながっていると感じています。

そのことを改めて感じながら、これからも学びを続けていきたいと思っています。

IMキャラバン 国際ロータリー第2740地区 第8グループ 諫早ロータリークラブ

諫早ロータリークラブより、会長 栗林 宏光君、幹事 堀 剛君、IM 実行委員長 廣渡雅也君ご来訪ありがとうございました。みなさんインターシティ・ミーティング是非ご参加ください。

■開催日：2026年3月7日(土) 14:00 受付開始 14:30 開場 15:00 点鐘

場 所：ホテルグランドパレス諫早



雑誌の時間 雑誌・月信小委員会 西畑君



皆さんこんにちは。今日もロータリーの友をしっかり読み込んできましたので、気になるトピックをお伝えしていきたいと思えます。

まずは横書きの方から p 3、R I 会長メッセージです。2 月は平和構築と紛争予防月間です。平和とは、単に戦争がない状態を指すものではありません。紛争がなくても、飢餓や不安定な生活に苦しみ、家族を支えることができない日々は、真の平和とは言えません。

平和には、自由と機会、そして人間の尊厳を尊重する敬意が欠かせません。しかし、変化への恐れ、文化的損失への不安、自分たちが理解できない人々に対する恐怖が、その道を阻むことがあります。恐れは、無視や攻撃によって克服できるものではありません。平和への第一歩は「知ること」です。という大切な考え方が記されています。p 6 からはある少年通信兵の沖縄戦ということで、コザ R C 名誉会員の諸見里安弘君に手記が掲載されています。戦後 81 年ということで戦争を経験した方々の生存者数が少なく、戦争の記憶が薄れていかないよう、このような悲惨な記録をしっかり理解し、二度と戦争を起こしてはいけないとの思いを私たちは持ち続けていかないと改めて思いました。p 20 には R I 会長が日本のロータリー平和センター来訪！ということで 2025 年 11 月に国際基督教大学を訪問されたことが書かれています。p 22 からは参加してよかったポリオ根絶活動ということで様々なエピソードが書かれています。ポリオの根絶まで本当にあと僅かに迫っています。引き続き小さな力ではありますが、私たちも寄付を続けていきましょう。p 32 には会員が求めることについて会員の声を聞き積極的参加を促すということで、会員の積極参加のヒントを探る中で、彼らは自らが育ってきた環境にあった親しみやすさが欠けていることに気づきました。退会者の中には、ロータリーの全体像を十分に理解していない人もいたようです。自分たちがいかに大きなものの一部であるか、自分たちの活動や寄付がいかにクラブの枠を超え、ほかの地域や大陸の人びとの生活にインパクトを与えるかを理解していなかったのです、とあります。参考にしたい考え方です。p 37 にはロータリー国際大会台湾・台北のお知らせがあります。日本から近いところで開催される大会ですので、ぜひ参加したいと思っています。多くの会員と行ければいいなと思っていますので良い渡航計画が出てくることを期待しています。続いては、縦書きの方からの紹介です。p 2 これからの時代の求められる不登校支援についてということで、文部科学省は、不登校を「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあるために年間 30 日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの」と定義しています。不登校人口は昨年発表した調査結果では、2023 年度の全国の小中学生で約 34 万 6500 人。前年から約 5 万人増えているとのこと。高校や大学、大学院、専門学校などに通う若者も加算したら、50 万人を超えるとみられています。不登校自体は病気でも問題行動でもないのですが、不登校の状態が長期化するといろいろな症状が出てきて、精神的な病気を発症しやすくなり、引きこもりへとつながっていくことが社会問題となっています。不登校、引きこもりのケアの目標は関係者全ての「自律」を目指すと書かれています。一人でも多くの方が

元気を取り戻して自律できるようにできるのか。社会全体で行動していかないと改めて思いました。

さて、雑誌の紹介は以上ですが、一昨日衆議院議員選挙と長崎県知事選挙の結果が出ました。国も県も新しい体制になりました。平和で安心して、みんながより良い生活ができるように舵取りをしていただくことを願っています。以上です。

パネルディスカッション 奉仕プロジェクトの時間 奉仕プロジェクト委員会

進行役 : 副会長 【伊達君】

パネリスト : ・入会 3 年目で有望株に成長、次年度幹事の【野島君】

・ロータリー歴 30 年、ロータリーを知り尽くしたミスターロータリアン【中瀬君】

・キャリア 13 年ながら、卓越した分析力と知性の持ち主【田原君】

テーマ : どうすれば例会が、より楽しく、参加しやすく、そして参加して良かったと感じられるものになるか。(～学びを軸に経験を振り返り、気づきを得る～)



トーク①経験

これまでの例会や活動の中で、参加して良かった、ためになったと感じた場面を教えてください。

- ・いろいろあり過ぎて・・・例会に多くの笑顔があることが印象的だ。
- ・若年～高齢まで世代間の交流と、異業種の関わりが良好と感じる。
- ・理事など 3 年経験、人それぞれの意見があることに気づく。

それぞれのご経験から実感を語っていただきました。

これまでのお話は、参加する中で得た気づきや学びだったと思います。

では次は、どうすれば、それらを会員の多くの方に共有できるのかの“視点”でお話を伺います。

トーク②改善

こうすると、もっと参加しやすくなるような工夫や

アイデアを教えてください。

- ・ 現在も、十分例会を楽しんでいる。楽しいと思える。問題はない。
- ・ 卓話の、興味を引く内容の充実と、丁寧な周知が必要である。
- ・ 親睦委員会に在籍するなかで、おもてなしの心の大切さに気付く。



みなさんの例会における改善提案は、会員同士の関わり方として、例会の充実や、声をかけやすい雰囲気づくりなど、本来の親睦の意味が伝わる声だったと思います。

ここまで、経験と改善の視点を伺ってきました。最後に、私たちは何を学ぼうとして例会に参加しているのか、その根本を伺います。

トーク③学び

例会や委員会、奉仕活動への出席を『学びの場』として捉えたとき、皆さまは、どのような学びを意識して参加されていますか。

- ・ 自分の存在を知ってもらい、一員になれるよう努力している。
- ・ ロータリー理念の職業奉仕のとおり、自分の仕事を通して倫理観が生まれる。

お話をまとめると、皆さんのハートが揃っていること、あるべき親睦は「相手を思いやるころ」であることの意識を感じました。また、そのような良好な関係づくりが重要だということも。

クロージング

本日は、経験、改善、そして学びという流れでお話を伺ってきました。

例会に参加することは、単なる出席ではなく自分を高める学びの機会だと思います。一例会や奉仕活動に参加しやすくなるには —

- 原点として、参加しやすさは、人的な工夫や制度だけで生まれるものではない。 ロータリーは、コミュニケーション力を鍛え人と関わる力を育てる実践の場です。
- コミュニケーション力（関わる力）は、
例会・奉仕活動・委員会への参加は、関わりの積み重ね。相手の言葉を受け取り、立場を想像し、会議の中で言葉を引き出す力が育つ。まさにアサーティブ・コミュニケーションの意識づけも重要です。
- 異業種コラボレーション力（つながる力）
異業種の集まりだからこそ、自分中心ではなく相手を尊重し、違いを前提に協力する力が磨かれます。

今日出た声は、今後の例会づくりに活かしていただけると幸いです。

パネリストの皆様、ご参加いただきほんとうにありがとうございます。

本日は、皆さまありがとうございました。



ニコニコBOX 2月10日 クラブ管理運営委員会 森田君



【諫早ロータリークラブ】

会長 栗林宏光君、幹事 堀剛君、IM 実行委員長 廣渡雅也君】

本日、IM キャラバンに参加しました。3月7日(土)たくさんのご参加宜しくお願い申し上げます。(3)

【伊達副会長・鶴田幹事】

本日は諫早ロータリークラブより栗林会長、堀幹事、IM 実行委員会の廣渡委員長、ご来訪ありがとうございます。IM キャラバンよろしくお願ひいたします。当クラブからも多くの会員を募って行きたいと思ひます。雑誌の時間、西畑君よろしくお願ひいたします。

奉仕プロジェクトの時間でディスカッションに参加される皆様、貴重なご意見楽しみにしております。(5)

【石坂君】

①栗林宏光 諫早ロータリークラブ会長、堀 剛クラブ幹事、廣渡雅也 IM 実行委員長
IM キャラバンご苦勞様です。

②伊達副会長の「会長の時間」熱さが伝わってきました。

③来る6月14日、台湾での国際大会ガバナーナイトへ、是非ご参加下さい！お待ちしております。(10)

【俣野君】

本日は諫早 RC より栗林会長、堀幹事、廣渡実行委員長ご来訪ありがとうございます。大村 RC 会員そろって参加し研修いたしましょう。(1)

【森本英敏君】

IM のキャラバンとの事、諫早 RC の栗林会長・堀幹事・廣渡実行委員長ようこそ歴史の街大村へ、寒い中にお越し下さりありがとうございます。個人的には是非参加させていただきます。今後ともご指導下さい。(1)

【太田君】

諫早 RC 栗林会長、堀幹事、廣渡実行委員長、IM のご準備でお忙しい中、キャラバンにお越し頂きありがとうございます。3/7 の IM 楽しみにしております。お世話になります。よろしくお願ひします。(1)

【福田君】

諫早ロータリークラブ、会長栗林君、幹事堀君、IM 実行委員長廣渡君、本日のご来訪誠にありがとうございます (1)

合計 22,000 円 累計 649,900 円

